

Lesson 2 訳例

() はこっちの訳でもいいという例、または訳についての補足的説明を表しています。訳“例”であることに注意してください。

p16

その言語においてほとんどの単語と形態素は固有の意味を持っている。われわれは、たとえすでに単語がいくつかの形態素からなっているかもしれないということを分かっているととしても単語の意味について話をする。

誰かが

The assassin was stopped before he got to Thwacklehurst.

(その暗殺者は Thwacklehurst のもとに到達する前に止められてしまった。)

という文章を言ったとする。もし assassin という単語が心内辞書にあるならそれは Thwacklehurst という名前のある重要人を殺害することができなかった人がいたとわかる。assassin の意味を知っているとそれは男性を殺そうとした動物でないこと、Thwacklehurst はたばこ店を営んでいる小柄な老人ではなさそうということが分かるだろう。言い換えると、assassin の意味を知っているとはその言葉が言及しているものがその人は人間で、殺人者で、重要人を殺す人だと知っているということを含む。ところで、これらは言語の話者が認めている単語の意味特性である。あらゆる名詞、動詞、形容詞、副詞—内容語—、それどころかいくつかの機能語—with, over—でさえも少なくとも一部分はそのような特徴、つまり意味素性で定義される。

p17

同じ意味特性は多くの異なった単語の意味の一部であるかもしれない。Female は

bitch hen doe mare ewe vixen actress maiden debutante widow girl woman

という単語を定義するのに役立つ意味特性である。

最後の 6 つ(書式の都合上原文と変わっている)の単語はまた「human」という意味特性で区別される。「human」という特徴はまた

doctor dean professor bachelor parent baby child

という単語にも見受けられる。これらの単語のうち最後の 2 つはまた「young」で区別される。baby, child という単語の意味の一部は「human」「young」(若い人間)である。

ということは単語の「意味」は、以下に示されているように「plus」と「minus」、つまり単語を定義するあらゆる意味特性の有無を示すことで具体化される。

ACTRESS	BABY	GIRL	BACHELOR	MARE	COURAGE
+human	+human	+human	+human	-human
+female	+female	-female	+female
.....	+young	+young	-young	-young
.....	+abstract

p18

同じ意味特性が違った品詞で見られるかもしれない。「Female」は名詞の mother、動詞の breastfeed(母乳で育てる)、形容詞の pregnant(妊娠している)の意味の一部である。他の意味特性はいつも話のある特定の部分に見られる。「cause」は動詞の特性で、darken, kill, uglify などに含まれている。

darken cause to become dark(暗くなる 暗くなる原因となる)

kill cause to die(殺す 死ぬ原因となる)

uglify cause to become ugly(醜くなる 醜い原因となる)

他の動詞の意味を説明するのに役立つ意味特性がこの表に示されている。

SEMANTIC PROPERTY	VERBS HAVING IT
+motion(動き)	bring, fall, plod, walk, run, ...
+contact(接触)	hit, kiss, touch, ...
+creation(創造)	build, imagine, make, ...
+sense(感覚)	see, hear, feel, ...

われわれは言語知識を持っているのでほとんどの場合でいかなる 2 つの単語が全く同じ意味を持つことはないと分かっている。そしてこのことは意味特性を通じて我々は意味をよりはっきりと区別することができるということを示唆している。plod を walk と区

別するために我々は「slow」という特性を使うだろうし、さらなる区別として stalk と plod を区別するためには「purposeful(目的がある)」のような特性が必要となる。

意味特性が存在していることの証拠はわれわれ皆がしてしまう、いくつかの会話での誤り、「slip of the tongue」(言い損ない)に示される。

p19

他の誤りは意図している単語の代わりに単語を入れてしまうという結果を招く。以下の何人かの話者が実際に生み出した以下の単語代入エラーを考えてみてください。

INTENDED UTTERANCE	ACTUAL UTTERANCE (ERROR)
blond hair	blond eyes
bridge of the nose	bridge of the neck
when my gums bled	when my tongues bled
he came too late	he came too early
Mary was young	Mary was early
the lady with the dachshund	the lady with the Volkswagen
that's a horse of another color	that's a horse of another race
he has to pay her alimony	he has to pay her rent

これらと、われわれや他の人が集めた他の何千ものエラーから、不正確な単語を代入してしまうこと(私たちが誤って発した代わりに言葉は)は全くの無作為な代入(もの)ではなく意図した単語と共通した意味特性をいくつか持っていることが明らかになる。hair and eyes, nose and neck, gums and tongues はすべて「体の部分」もしくは「頭の(“首から上の”の意味かと思われる)パーツ」である。young, early, と late は「時間」と関連がある。dachshund と volkswagen はともに「ドイツ」と「小さい」と関連がある。color と race の意味特性の関係、それどころか alimony(慰謝料)と rent(賃料)の関係はむしろ自明だろう。

ほかのスピーチエラーは以下に示されているようなワードブレンド(言葉が混ざってしまうこと)である。

COMPONENT WORDS	BLEND ERROR
Splinters/blisters	splisters
edited/annotated	editated
terrible/horrible	herrible
smart/clever	smever

a tennis player/athlete	a tennis aheler
a swimming/hip chick	a swip chick
marijuana/acid	maracid
frown/scowl	frowl
aspect/viewpoint	aspoint

p20

それはほとんどこれらの誤りを発した話者が、彼らが伝えたいと思った意味をあらわす単語の意味特性や特徴を持っていて（もともと知っていてということ）、いくつかの意味特性を含む 1 つ以上の単語を心内辞書から引き出したが、それらの中から 1 つに決めることができず、結局そこでそれらを混ぜてしまったかのようだ。それゆえ話における誤りは我々が単語の意味特性について何を言っているかを補足する。

（それはまるでこのような誤りを犯す話者たちがいくつかの意味特性を含んだ、2 語以上の単語を伝えたく、）

単語の意味は、一部分は一連の意味特性によって具体化される。例えば、**kitten** という単語を考えてみてください。この単語の意味を知っているということは、それが動物で、若い動物で、若いネコ科の動物で…などということについて言及していることを知っている、ということの意味する。その言葉は特定の子猫を指すのではない。つまり、子猫の意味はいかなる特定の子猫の大きさや、色や、年齢、またはその子猫の名前が何であるかどこに住んでいるか、誰が飼っているかを含まないということである。その意味はすべての子猫が共通にもっていることを指す。それは「子猫らしさ」を定義するのである。